

授業科目名	心理学実験実習
科目番号	0BTB011
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 月3,4
担当教員	山口 一大, 藤田 和也
授業概要	教員指導のもとで、履修生が学士課程の心理学統計実習等のインストラクターを務める。インストラクターとして学類生に各種の心理統計の実際を体験的に教える活動を通して、研究推進における心理学統計についての理解を深め、さらに将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。
備考	対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス: マネジメント能力、コミュニケーション能力 学位プログラムコンピテンス: 心理学的問題解決力、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション力、心理臨床支援能力
授業の到達目標（学修成果）	大学生が心理学の研究・学習を行う上で必要となる、記述統計、推測統計(仮説検定)、各種データ解析手法に関する実習計画及び実習教材を作成し、教育的指導ができるようになることが、本授業の到達目標である。実習計画の立案と教材作成および実習の実施により、汎用コンピテンス（「マネジメント能力」、「コミュニケーション能力」）および学位プログラムコンピテンス（「心理学的問題解決力」、「心理学的情報発信力」、「多領域間コミュニケーション力」、「心理臨床支援能力」）が身につく。
授業計画	心理学統計法IならびにIIにおいては以下のことを教授する予定である。履修者はこれらに関する実習内容を考え、実行すること。 1. 記述統計と相関・単回帰、Rの使い方の基礎（2章3章） 2. 検定・推定の基礎（4、5章の前半） 3. 信頼区間・検定力分析（5章後半） 4. 平均値差と連関の推測（6章） 5. 線形モデル（7章） 6. 偏相関・重回帰分析（8章） 7. 実験デザイン～多重比較（9章前半） 8. 2要因の分散分析（9章後半） 9. 因子分析（10章前半） 10. SEM（10章後半） 実習の基本スケジュールは以下の通り 第1回 教科書第1章の実習資料作成 第2回 教科書第2章の実習資料作成 第3回 教科書第3章の実習資料作成 第4回 教科書第4章の実習資料作成 第5回 教科書第5章の実習資料作成 第6回 教科書第6章の実習資料作成 第7回 教科書第7章の実習資料作成 第8回 教科書第8章の実習資料作成 第9回 教科書第9章の実習資料作成 第10回 教科書第10章の実習資料作成 第11回 教科書第1章の実習練習

<p>授業計画</p>	<p>第12回 教科書第2章の実習練習 第13回 教科書第3章の実習練習 第14回 教科書第4章の実習練習 第15回 教科書第5章の実習練習 第16回 教科書第6章の実習練習 第17回 教科書第7章の実習練習 第18回 教科書第8章の実習練習 第19回 教科書第9章の実習練習 第20回 教科書第10章の実習練習 第21回 教科書第1章の実習実施 第22回 教科書第2章の実習実施 第23回 教科書第3章の実習実施 第24回 教科書第4章の実習実施 第25回 教科書第5章の実習実施 第26回 教科書第6章の実習実施 第27回 教科書第7章の実習実施 第28回 教科書第8章の実習実施 第29回 教科書第9章の実習実施 第30回 教科書第10章の実習実施</p>
<p>履修条件</p>	<p>心理学学位プログラムの学生に限る。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>実習の準備状況（80%）、ならびに担当以外の発表資料作成の補助参加・実習の実施状況（20%）により評価を行う。 発表の準備・資料作成については、発表資料の作成の際にフィードバックを行う。 また、担当箇所以外の発表資料作成への積極的な関与も評価対象となる。 なお、生成AIを用いた資料作成の補助を行った場合は、どの点について、どのように利用したかを明記すること。明記せずに利用したことが発覚した場合には、評価を大幅に下げるので注意すること。</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>心理統計、データ解析等の書籍の講読を通して実習計画を設計し、予習を行い準備すること。 また、発表練習・実習のあとに発表の全体を振り返ることにより、復習を行うこと。 本講義は2単位分の講義であるので、授業の受講と予習・復習を含めて、最低90時間の学習が必要となる。</p>
<p>教材・参考文献・配付資料等</p>	<p>「心理学統計法I」と「心理学統計法II」の教科書となっている以下の書籍、ならびにその問題集を参考に実習内容を計画し、実行すること。 1. 南風原朝和, 心理統計学の基礎 2. 南風原朝和・杉沢武俊・平井洋子, 心理統計学ワークブック 理解の確認と深化のために</p>
<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>実習に関して質問等がある場合には、以下のメールアドレスまで連絡すること。 山口 一大 木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>履修者に対して初回のオリエンテーションを実施するので、履修を希望するものは必ず参加すること。 生成AIの利用については、「教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。</p>

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理統計教育

授業科目名	心理学研究マネジメント実習1
科目番号	0BTB012
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 月5,6
担当教員	川上 直秋, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 杉江 征, 濱口 佳和, 大山 潤爾, 外山 美樹, 松田 壮一郎, 菅原 大地, 千島 雄太, 伊藤 正哉, 浅野 憲一, 生田 目光
授業概要	教員指導のもとで、履修者が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設する。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に大枠としての研究の進め方の指導方法について、体験的に学ぶことを目的とする。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理臨床実践力 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	<p>学類生を対象に教員の指導のもと、自身が中心となって共同研究を遂行することによって、研究アイデアの創成、円滑に研究を進めるためのマネジメント能力とリーダーシップ力を一体的に身に付けることができる。</p> <p>また、各自の関心に応じた実践的な心理学研究の遂行によって、実証的データに基づいて人の心を理解する能力、問題を解決する能力を習得することができる。プレゼンテーションと論文執筆を通して、情報発信力と多領域間のコミュニケーション力を向上させることができる。</p>
授業計画	<p>各指導教員が担当する研究グループの学生に対して、教員の指導のもと、院生が中心となって共同研究を遂行させる。研究構想から始まり、研究計画、研究の実施、データ分析、論文執筆、研究成果のプレゼンテーションまでを遂行させ、研究を完成させる。おおよその授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：研究アイデアの創成 第3回：研究計画の立案 第4回：研究の準備 第5回：研究の実施 第6回：データ分析 第7回：結果の解釈 第8回：データ分析 第9回：プレゼンテーション 第10回：論文の執筆</p>
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	研究指導の過程と研究成果の水準を総合的に勘案して評価を行う(100%)。研究指導と研究成果の評価のフィードバックは、各指導教員から指導の過程を通して適宜行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	研究についてわかりやすく学生を指導するため、最先端の心理学研究法について各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

方法	1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	参考文献として以下の著書を薦める。 1. 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編),『心理学研究法入門：調査・実験から実践まで』東大出版会,2001 2. 南風原朝和(著),『心理統計学の基礎 総合的理解のために』有斐閣,2002 3. 南風原朝和(著),『続・心理統計学の基礎 総合的理解を広げ深める』有斐閣,2002 4. 松井 豊(著),『改訂新版 心理学論文の書き方:卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社,2010
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	研究の高度な学術的水準の達成と、学生に対するわかりやすい教授の両方を兼ね備えた内容になるよう真摯に取り組むこと。オリエンテーションならびに発表会には必ず参加すること。 生成AI については、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	教授法 動機づけ手法 統計学的分析法 質問紙調査法 実験法

授業科目名	心理学研究マネジメント実習2
科目番号	0BTB013
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 月5,6
担当教員	川上 直秋, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 杉江 征, 濱口 佳和, 大山 潤爾, 外山 美樹, 松田 壮一郎, 菅原 大地, 千島 雄太, 浅野 憲一, 生田 目光
授業概要	教員指導のもとで、履修生が学士課程学生を対象として、研究指導を行っていく実習科目である。学類生に各種の心理学研究法の実際を体験的に教えることで、将来の大学教員および研究者としての能力向上を企図して開設するものである。学期ごとに研究テーマを提示して参加を希望する学生グループを指導し、研究計画からレポート作成までの研究のマネジメントを行う。特に、グループメンバーの学生の個人差を考慮しながら、より有効な教育・研究指導の在り方について、体験的に学ぶことを目的とする。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理臨床支援能力 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	<p>心理学類生を対象に教員の指導のもと、自身が中心となって共同研究を遂行することによって、研究アイデアの創成、円滑に研究を進めるためのマネジメント能力とリーダーシップ力を一体的に身に付けることができる。</p> <p>また、各自の関心に応じた実践的な心理学研究の遂行によって、実証的データに基づいて人の心を理解する能力、問題を解決する能力を習得することができる。プレゼンテーションと論文執筆を通して、情報発信力と多領域間のコミュニケーション力を向上させることができる。</p>
授業計画	<p>各指導教員が担当する研究グループの学生に対して、教員の指導のもと、院生が中心となって共同研究を遂行させる。研究構想から始まり、研究計画、研究の実施、データ分析、論文執筆、研究成果のプレゼンテーションまでを遂行させ、研究を完成させる。おおよその授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：研究アイデアの創成 第3回：研究計画の立案 第4回：研究の準備 第5回：研究の実施 第6回：データ分析 第7回：結果の解釈 第8回：データ分析 第9回：プレゼンテーション 第10回：論文の執筆</p>
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること。
成績評価方法	研究指導の過程と研究成果の水準を総合的に勘案して評価を行う(100%)。研究指導と研究成果の評価のフィードバックは、各指導教員から指導の過程を通して適宜行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	研究についてわかりやすく学生を指導するため、最先端の心理学研究法について各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

方法	1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	参考文献として以下の著書を薦める。 1. 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編),『心理学研究法入門：調査・実験から実践まで』東大出版会,2001 2. 南風原朝和(著),『心理統計学の基礎 総合的理解のために』有斐閣,2002 3. 南風原朝和(著),『続・心理統計学の基礎 総合的理解を広げ深める』有斐閣,2002 4. 松井 豊(著),『改訂新版 心理学論文の書き方:卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社,2010
オフィスアワー等（連絡先含む）	各指導教員と予めアポイントメントをとること。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	研究の高度な学術的水準の達成と、学生に対するわかりやすい教授の両方を兼ね備えた内容になるよう真摯に取り組むこと。オリエンテーションならびに反省会には必ず参加すること。 生成AI については、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	教授法 動機づけ手法 統計学的分析法 質問紙調査法 実験法

授業科目名	心理学先端研究1
科目番号	0BTB021
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春季休業中 集中
担当教員	石井 悠, 山口 一大
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	西暦偶数年度開講。 対面 オンライン（オンデマンド型または同時双方向型）により実施
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 汎用コンピテンス 知の活用力, 国際性 2. 専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力
授業の到達目標（学修成果）	1. 認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 主要な理論と方法論、並びに実証された知見を説明できるようになる。 2. 上記1によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。
授業計画	特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、5コマから成る講義と討論を行い 2日間、10コマ（1コマ75分）の授業計画である。 1日目 5コマに渡り, 特定トピックについての方法論、概念、理論、実証的研究、支持された仮説などについての講義と質疑応答を行う 2日目 講師の与えた課題に取り組み, 学びをさらに進化させて課題を提出する。 最後は課題に対して担当教員からのコメントを受け取る。 第1回：最新の心理学研究に関する基礎研究の紹介 第2回：最新の心理学研究に関する応用研究の紹介 第3回：最新の心理学研究に関する論文購読 第4回：最新の心理学研究に関するディスカッション 第5回：最新の心理学研究に関する研究のまとめ
履修条件	
成績評価方法	レポート（100%） レポートについて, 達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師が指定した教科書や論文に事前に読んでおくこと 1単位の授業科目は、45時間の学修（授業時間外の学修を含む）を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	各講師が指定した教科書や論文を参照すること
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞ	「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してく

むことや受講上の注意 点等)	ださい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、方法論、理論、エビデンス

授業科目名	心理学先端研究2
科目番号	0BTB022
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	ジョイス テリー, 生田目 光
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、研究者としての研究展開の在り方を講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	開講日 第1回 2025年5月17日（土）13時～15時30分 Zoomによるオンライン双方向 第2回 2025年6月21日（土）13時～17時30分 Zoomによるオンライン双方向 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 5. 国際性 ・専門コンピテンス 6. 心理学的問題発見と人間理解力
授業の到達目標（学修成果）	国際的な研究力を身に付け、英語での論文・学会発表を主体的に行っていくために必要な知識・スキルを獲得する。
授業計画	本講義では、テリー・ジョイス先生をお迎えし、国際的な研究成果発信として英語での論文作成、学会発表のための基礎知識を学び、実際に自分自身の研究報告を実践しながら、担当教員ならびに受講生同士でのコメントも得て、国際的研究発信の足場を造っていきます。 授業は大きく二つに分かれており、いずれも自分自身の研究テーマ、研究成果についての成果発信の実習を含みます。 1) 国際学会・国際雑誌での研究成果発表の第一歩として、abstractを書く力を身に付ける（テリー・ジョイス担当） 1-1) 英文abstractの書き方についての座学 1-2) 自分自身の研究について、abstractを書く（実習）：個別にテリー先生の講評をもらいながら、推敲をしていきます。 2) 国際学会での研究報告への第一歩として、英語でのpresentationを学ぶ（生田目・原田担当） 2-1) 英語でのpresentationに関する知識・スキルを学修する 2-2) 自分自身の研究を題材として、presentationを行い、相互により良い方法について意見交換を行うワークショップにおいて、発表並びに議論への参加をする：心理学学位プログラムの複数の教員も参加するプレゼンテーションの場で実施します。

履修条件	心理学に関する研究の経験があり、公表を行う研究成果があること。
成績評価方法	それぞれの実習の成果を評価対象とする。(100%) 実習の成果へのフィードバックは授業内で実施する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	前半のabstractについては春学期ABに随時、後半のpresentationについては9月にプレゼンテーション大会を行う。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	授業内で紹介する
オフィスアワー等(連絡先含む)	メールで事前に連絡を取ってください。 ジョイス テリー 生田目 光
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	国際学会, 国際雑誌への論文投稿, 英文abstract, 英語でのプレゼンテーション

授業科目名	心理学先端研究3
科目番号	0BTB023
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	秋B 集中
担当教員	川上 直秋, 松田 壮一郎
授業概要	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学と深い関連性を有する周辺の領域から先端的研究者を招聘し、心理学と他領域との関連性や今後の融合的転回の在り方について、講義・議論を通じて学ぶことを目的とする。
備考	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型) 開講日12月21日(木)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 汎用コンピテンス 知の活用力, 国際性 2. 専門コンピテンス 心理学的問題発見と人間理解力, 心理学的問題解決力
授業の到達目標(学修成果)	認知・知覚, 教育・社会・発達, 臨床等の心理学領域の特定のトピックスについて, 専門家による最先端の講義を通して, 心理学的知見の活用力と世界でインパクトを与えるための国際性を身に付けることができる。 上記によって得られた知識を現代社会が直面する特定の問題に適用し, 心理学的な観点から問題解決について具体的な提言ができるようになる。
授業計画	特定のトピックスについての深い専門性を持つ国内の研究者を非常勤講師として招き、最先端の心理学的知見を学ぶ授業計画である。 第1回 オリエンテーション 第2回 講師による講義(最新の研究) 第3回 講師による講義(最新の研究の流行) 第4回 講師による講義(最新の分析) 第5回 講師による講義(総合的な解釈) 第6回 受講生による発表・討論 第7回 受講生による発表・討論 第8回 受講生による発表・討論 第9回 受講生による発表・討論 第10回 まとめ
履修条件	分野にかかわらず、心理学の最先端の研究に興味を持つ者
成績評価方法	レポート提出(50%)、討論への貢献度(50%)により、総合的に評価する。終了後、レポートへの感想等のフィードバックを講師よりメールやmanabaを通して行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	あらかじめ担当講師より指定された論文や書籍を熟読すること。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	特に指定しない。講師より資料等の配布を行う。
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞ	自身の研究領域とは異なる講義であっても、積極的に受講し、心理学の最先端の幅広い

むことや受講上の注意 点等)	知識を身に付けることを期待する。 生成AI については、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用すること。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	認知心理学、感覚知覚心理学、教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学

授業科目名	心理学特別研究D1
科目番号	0BTB031
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	濱口 佳和, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 杉江 征, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 松田 壮一郎, 菅原 大地, 千島 雄太, 浅野 憲一, 阿部 高志, 中島 俊, 伊藤 正哉, 久我 久典
授業概要	心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期1年目に履修する。特に研究計画を構築して博士論文構想発表会に備えること、また論文形式の研究成果報告の方法について指導を行なう。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	心理学の領域で学位論文を作成していくために、博士論文の構想を組み立て、研究計画を構築し、論文形式の研究成果報告の方法を修得する。
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。学生の研究の進捗状況にもよるがおよその講義予定は以下のとおりである。 第1回：先行研究のレビュー 第2回：研究計画 第3回：研究の実施 第4回：研究のまとめ 第5回：研究の発表・論文投稿
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	ゼミでの発表(100%) 各回の発表について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国内外の研究論文を講読する。国内外の学会・研究会などで専門家の意見を聴く。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/
その他(受講生にのぞ	「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してく

むことや受講上の注意 点等)	ださい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	仮説生成 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床心理学

授業科目名	心理学特別研究D2
科目番号	0BTB032
単位数	1.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	濱口 佳和, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 杉江 征, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 松田 壮一郎, 菅原 大地, 千島 雄太, 浅野 憲一, 阿部 高志, 中島 俊, 伊藤 正哉, 久我 久典
授業概要	心理学特別研究D1に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期2年目に履修する。特に研究計画全体を考察・展開しながら個々の研究を計画・実施・とりまとめを行なっていくプロセスについて指導を行なう。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	心理学の領域で学位論文を作成していくために、博士論文の構想を組み立て、具体的な研究計画を構築し、論文形式の研究成果を報告する。
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。学生の研究の進捗状況にもよるがおよその講義予定は以下のとおりである。 第1回：先行研究のレビュー 第2回：研究計画 第3回：研究の実施 第4回：研究のまとめ 第5回：研究の発表・論文投稿
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	各ゼミ等での発表(100%) 各指導教員から研究進捗について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国内外の研究論文を講読する。国内外の学会・研究会などで自らの研究成果を発表する。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/
その他(受講生にのぞ	「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してく

むことや受講上の注意 点等)	ださい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	論文執筆 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床心理学

授業科目名	心理学特別研究D3
科目番号	0BTB033
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	濱口 佳和, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 杉江 征, 大山 潤爾, 川上 直秋, 外山 美樹, 松田 壮一郎, 菅原 大地, 千島 雄太, 浅野 憲一, 阿部 高志, 中島 俊, 伊藤 正哉, 久我 久典
授業概要	心理学特別研究D1、D2に引き続き、心理学の領域で学位論文を作成していくために必要な研究の実践指導、論文指導を行う。博士課程後期3年目に履修する。特に個々の研究の結果をまとめながら、一つの大きな研究としてのまとめりをつけていくプロセス、ならびに成果発表のためのプレゼンテーション法などについて、指導を行なう。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. 国際性 ・専門コンピテンス 1. 心理学的人間理解力 2. 心理学的問題解決力 3. 心理学的情報発信力 4. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	<p>個々の研究成果を学会や学術論文で発表する。また、個々の研究成果を、心理学の領域での学位論文として構成していくために、一つの大きな研究テーマに則して纏める。学生の研究の進捗状況にもよるがおよその講義予定は以下のとおりである。</p> <p>第1回：先行研究のまとめ 第2回：問題と目的の設定 第3回：研究の実施と分析 第4回：研究のまとめ 第5回：研究の発表</p>
授業計画	各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	<p>各ゼミでの発表(100%)</p> <p>各回の発表について、達成度評価を基にフィードバックされる。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>自らの研究成果を国内外の学会・研究会などで、また、国内外の学術雑誌で、発表する。</p> <p>1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。</p>
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>各指導教員と予めアポイントメントをとること。</p> <p>濱口 佳和 yhama at human.tsukuba.ac.jp 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 杉江 征 sugie at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/</p>
その他(受講生にのぞ	「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してく

むことや受講上の注意 点等)	ださい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	プレゼンテーション法 論文構成法 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 言語心理学 青年心理学 対人心理学 臨床

授業科目名	心理学英語プレゼンテーション1
科目番号	0BTB034
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春C夏季休業中 集中
担当教員	生田 日光, 千島 雄太, 鳥山 理恵
授業概要	国際学会等での発表スキルを高めるために、発表スライドやポスターの作り方を学び、発表の練習を行う。
備考	2023年度より3年おきに開講。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 3. コミュニケーション能力 5. 国際性 専門コンピテンス 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	研究成果を発信していくために必要な、英語でのコミュニケーションに必要な知識とスキルを身に着ける。 英語の口頭発表における、プレゼンテーション資料の作り方を学ぶ。 英語でのプレゼンテーションスキルを身につける。
授業計画	<p>本講義では、自分自身の研究の考え方や成果を、国際的な研究交流の場で発信し、コミュニケーションを行っていくことの重要性を学び、そのために必要な英語での発表のための基礎知識とスキルを身に付けます。英語での心理学研究のコミュニケーションに詳しい外部講師を迎え、一人一人の研究成果を実際に発表用のスライドに仕上げている、プログラム内での英語プレゼンテーション大会でその成果を報告します。</p> <p>授業は大きく3つの段階に分かれ、いずれも自分自身の研究テーマ、研究成果についての成果発信構成の実習を含みます。</p> <p>（全員、対面） 第1回：心理学英語プレゼンテーションに向けて：講義と初めてのスライドづくり実習 全員が対面で、それぞれの研究での問題・考え方をまとめ、それを英語で表現していく方法を学びます。</p> <p>（個別指導、遠隔） 第2回：英語でのプレゼンテーションを構成する（個別） 第3回：英語でのプレゼンテーションの表現を工夫する（個別） 第4回：英語でのプレゼンテーションを実践してみる（個別）</p> <p>（全員、対面） 第5回：心理学英語プレゼンテーション大会：自分自身が発表をする、他の受講生の発表を聞いて学ぶ</p> <p>初回授業までに、自分の研究（修士論文）の問題部分を説明できるように整理し、スライド数枚分を発表概要として準備し、自分でできる範囲で英語にしてみたものを準備してください。</p> <p>その際に、特に英語で苦手なところ、わからない点などをまとめてくるとよりよいでしょう。</p>
履修条件	心理学領域で何らかの経験があり、日本語（あるいは英語）での発表経験があること（修士論文発表会などを含む）。 プレゼンテーション大会で発表できる心理学の研究成果があること（すでに発表済みの

履修条件	ものでも可)。
成績評価方法	心理学英語プレゼンテーション大会での発表(スライド資料の評価を含む)(100%) 心理学英語プレゼンテーション大会での発表に対するフィードバックは授業内で実施する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師から指定される教科書や参考書を読む。 プレゼンテーション用の資料を作成する。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	下記は一例ですが、さまざまな書籍やWebサイトで、英語での研究発表のための資料があります。この授業では実際に自分の研究発表を「作り上げて」行きますので、随時そうした参考資料に当たって、自分なりに進めていき、その上で、講師によるフィードバックでのブラッシュアップをしていきましょう。 1. C.S.Langham 国際学会English スピーキング・エクササイズ口演・発表・応答 2. C.S.Langham 国際学会English 口頭発表 研究発表のための英語プレゼンテーション
オフィスアワー等(連絡先含む)	外部講師との連絡方法は初回講義時に示します。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	上記の履修条件を満たすならば、心理学学位プログラム博士後期課程以外の人も履修可能です(他学位プログラムや博士課程前期)。ただし、個別指導が入る授業のため、受講希望者が多い場合は、心理学学位プログラム博士後期課程の学生を優先し、その他の学生には次年度などの履修をお願いする場合があります。 「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	英語, 国際学会, プレゼンテーション, ポスター発表, 口頭発表

授業科目名	心理学英語プレゼンテーション2
科目番号	0BTB035
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春C夏季休業中 集中
担当教員	生田目 光, 千島 雄太, 鳥山 理恵
授業概要	国際学会等での発表スキルを高めるために、発表スライドやポスターの作り方を学び、発表の練習を行う。
備考	2024年度より3年おきに開講。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 3. コミュニケーション能力 5. 国際性 専門コンピテンス 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	研究成果を発信していくために必要な、英語でのコミュニケーションに必要な知識とスキルを身に着ける。 英語の口頭発表における、プレゼンテーション資料の作り方を学ぶ。 英語でのプレゼンテーションスキルを身につける。
授業計画	<p>本講義では、自分自身の研究の考え方や成果を、国際的な研究交流の場で発信し、コミュニケーションを行っていくことの重要性を学び、そのために必要な英語での発表のための基礎知識とスキルを身に付けます。英語での心理学研究のコミュニケーションに詳しい外部講師を迎え、一人一人の研究成果を実際に発表用のスライドに仕上げている、プログラム内での英語プレゼンテーション大会でその成果を報告します。</p> <p>授業は大きく3つの段階に分かれ、いずれも自分自身の研究テーマ、研究成果についての成果発信構成の実習を含みます。</p> <p>（全員、対面） 第1回：心理学英語プレゼンテーションに向けて：講義と初めてのスライドづくり実習 全員が対面で、それぞれの研究での問題・考え方をまとめ、それを英語で表現していく方法を学びます。</p> <p>（個別指導、遠隔） 第2回：英語でのプレゼンテーションを構成する（個別） 第3回：英語でのプレゼンテーションの表現を工夫する（個別） 第4回：英語でのプレゼンテーションを実践してみる（個別）</p> <p>（全員、対面） 第5回：心理学英語プレゼンテーション大会：自分自身が発表をする、他の受講生の発表を聞いて学ぶ</p> <p>初回授業までに、自分の研究（修士論文）の問題部分を説明できるように整理し、スライド数枚分を発表概要として準備し、自分でできる範囲で英語にしてみたものを準備してください。</p> <p>その際に、特に英語で苦手なところ、わからない点などをまとめてくるとよりよいでしょう。</p>
履修条件	心理学領域で何らかの経験があり、日本語（あるいは英語）での発表経験があること（修士論文発表会などを含む）。 プレゼンテーション大会で発表できる心理学の研究成果があること（すでに発表済みの

履修条件	ものでも可)。
成績評価方法	心理学英語プレゼンテーション大会での発表(スライド資料の評価を含む)(100%) 心理学英語プレゼンテーション大会での発表に対するフィードバックは授業内で実施する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師から指定される教科書や参考書を読む プレゼンテーション用の資料を作成する 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	下記は一例ですが、さまざまな書籍やWebサイトで、英語での研究発表のための資料があります。この授業では実際に自分の研究発表を「作り上げて」行きますので、随時そうした参考資料に当たって、自分なりに進めていき、その上で、講師によるフィードバックでのブラッシュアップをしていきましょう。 1. C.S.Langham 国際学会English スピーキング・エクササイズ口演・発表・応答 2. C.S.Langham 国際学会English 口頭発表 研究発表のための英語プレゼンテーション
オフィスアワー等(連絡先含む)	外部講師との連絡方法は初回講義時に示します。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	上記の履修条件を満たすならば、心理学学位プログラム博士後期課程以外の人も履修可能です(他学位プログラムや博士課程前期)。ただし、個別指導が入る授業のため、受講希望者が多い場合は、心理学学位プログラム博士後期課程の学生を優先し、その他の学生には次年度などの履修をお願いする場合があります。 「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	英語, 国際学会, プレゼンテーション, ポスター発表, 口頭発表

授業科目名	心理学英語プレゼンテーション3
科目番号	0BTB036
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春C夏季休業中 集中
担当教員	生田目 光, 千島 雄太, 鳥山 理恵
授業概要	国際学会等での発表スキルを高めるために、発表スライドやポスターの作り方を学び、発表の練習を行う。
備考	英語で授業 2025年度より3年おきに開講。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 3. コミュニケーション能力 5. 国際性 専門コンピテンス 4. 心理学的情報発信力 5. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	研究成果を発信していくために必要な、英語でのコミュニケーションに必要な知識とスキルを身に着ける。 英語の口頭発表における、プレゼンテーション資料の作り方を学ぶ。 英語でのプレゼンテーションスキルを身につける。
授業計画	<p>本講義では、自分自身の研究の考え方や成果を、国際的な研究交流の場で発信し、コミュニケーションを行っていくことの重要性を学び、そのために必要な英語での発表のための基礎知識とスキルを身に付けます。英語での心理学研究のコミュニケーションに詳しい外部講師を迎え、一人一人の研究成果を実際に発表用のスライドに仕上げている、プログラム内での英語プレゼンテーション大会でその成果を報告します。</p> <p>授業は大きく3つの段階に分かれ、いずれも自分自身の研究テーマ、研究成果についての成果発信構成の実習を含みます。</p> <p>（全員，対面） 第1回：心理学英語プレゼンテーションに向けて：講義と初めてのスライドづくり実習 全員が対面で、それぞれの研究での問題・考え方をまとめ、それを英語で表現していく方法を学びます。</p> <p>（個別指導，遠隔） 第2回：英語でのプレゼンテーションを構成する（個別） 第3回：英語でのプレゼンテーションの表現を工夫する（個別） 第4回：英語でのプレゼンテーションを実践してみる（個別）</p> <p>（全員，対面） 第5回：心理学英語プレゼンテーション大会：自分自身が発表をする、他の受講生の発表を聞いて学ぶ</p> <p>初回授業までに、自分の研究（修士論文）の問題部分を説明できるように整理し、スライド数枚分を発表概要として準備し、自分でできる範囲で英語にしてみたものを準備してください。</p> <p>その際に、特に英語で苦手なところ、わからない点などをまとめてくるとよりよいでしょう。</p>
履修条件	心理学領域で何らかの経験があり、日本語（あるいは英語）での発表経験があること

履修条件	(修士論文発表会などを含む)。 プレゼンテーション大会で発表できる心理学の研究成果があること(すでに発表済みのものでも可)。
成績評価方法	心理学英語プレゼンテーション大会での発表(スライド資料の評価を含む)(100%) 心理学英語プレゼンテーション大会での発表に対するフィードバックは授業内で実施する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講師から指定される教科書や参考書を読む。 プレゼンテーション用の資料を作成する。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	下記は一例ですが、さまざまな書籍やWebサイトで、英語での研究発表のための資料があります。この授業では実際に自分の研究発表を「作り上げて」行きますので、随時そうした参考資料に当たって、自分なりに進めていき、その上で、講師によるフィードバックでのブラッシュアップをしていきましょう。 1. C.S.Langham 国際学会English スピーキング・エクササイズ口演・発表・応答 2. C.S.Langham 国際学会English 口頭発表 研究発表のための英語プレゼンテーション
オフィスアワー等(連絡先含む)	外部講師との連絡方法は初回講義時に示します。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	上記の履修条件を満たすならば、心理学学位プログラム博士後期課程以外の人も履修可能です(他学位プログラムや博士課程前期)。ただし、個別指導が入る授業のため、受講希望者が多い場合は、心理学学位プログラム博士後期課程の学生を優先し、その他の学生には次年度などの履修をお願いする場合があります。 「教育における生成 AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	英語, 国際学会, プレゼンテーション, ポスター発表, 口頭発表

授業科目名	心理統計学応用
科目番号	0BTB037
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春A 金1; 春B 金2
担当教員	山口 一大
授業概要	計量心理学・心理統計学に関わる英語論文・洋書等を輪読し、計量心理学・心理統計学への理解を深め、自身の研究に活かせるようにする。受講生は、英語論文を選択し（洋書の場合には割り当てられた章について）、内容を適切に要約したレジュメを作成し、発表を行い、受講者全員で議論を行う。自分が発表する回以外であっても、発表される文献を熟読し、理解できた点のみならず、疑問点やわからなかった点を整理して講義に臨む。
備考	オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用コンピテンス：知の活用力 ・学位プログラムコンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力、心理学的問題解決力、多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標（学修成果）	本授業では、心理学や行動科学で用いられる統計手法についての専門書（主に洋書）を輪読し、統計的な手法の理論的な背景や心理学研究での利用方法、ソフトウェアの利用方法を習得する。専門書を輪読し受講者の間で議論を行うことにより、汎用コンピテンス（「知の活用力」）および学位プログラムコンピテンス（「心理学的問題発見と人間理解力」、「心理学的問題解決力」、「多領域間コミュニケーション力」）が身につく。
授業計画	<p>本授業では、指定されたテキストの章や文献を授業までに熟読し、その内容をレジュメにまとめて参加者に向けて発表を行う。単に内容をまとめるだけでなく、その手法が用いられている具体的な研究を紹介したり、分析ソフトについての補足など追加の情報を加えることが望ましい。</p> <p>以下、各回の講義計画を示す。ただし、使用するテキストは初回の講義の際に指定し、発表する箇所についても初回に役割分担を決定する。</p> <p>第1回：ガイダンス・1. Meta-analysis in a Nutshell, 2. Mathematical Framework 第2回：3. Meta-analysis and the Scientific Method, 4. Meta-analysis and Random Effect Analysis 第3回：5. Meta-analyses of Randomized Controlled Trials, 6. Meta-analysis of Observational Plus Randomized Studies 第4回：7. Meta-analysis of Observational Studies, 8. Meta-regression 第5回：9. Meta-analysis of Diagnostic Studies, 10. Meta-Meta-analysis 第6回：11. Network Meta-analysis, 12. Random Intercepts Meta-analysis 第7回：13. Probit Meta-regression, 14. Meta-analysis with General Loglinear Models 第8回：15. Meta-analysis with Variance Components, 16. Ensembled Correlation Coefficients 第9回：17. Ensembled Accuracies, 18. Multivariate Meta-analysis 第10回：19. Transforming Odds Ratios into Correlation Coefficients, 20. Meta-analyses with Direct and Indirect Comparisons</p>
履修条件	特になし。

成績評価方法	<p>自身の担当の発表（準備した資料の質・内容の理解度など、80%）、積極的な議論への参加（自身の発表以外での質問・コメントなど、20%）に基づいて成績評価を行う。</p> <p>発表の準備、積極的な議論への参加で、批判的にデータを見る力やデータ・情報リテラシー（汎用コンピテンス）、行動分析力や普遍性と多様性の理解、実証的な志向性と探究心（専門コンピテンス）を評価する。</p> <p>発表の準備・資料、積極的な議論への参加は各回の発表の際にフィードバックを行う。</p> <p>なお、生成AIを用いた資料作成の補助を行った場合は、どの点について、どのように利用したかを明記すること。明記せずに利用したことが発覚した場合には、評価を大幅に下げるので注意すること。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>発表準備が授業の予習に相当する。また、それぞれの講義内容を理解できていることが次の講義の内容の理解に影響を与えるため、講義資料の見直し、講義の録画などを活用した復習を行う必要がある。また、自身の発表分の内容のみならず、毎回発表対象となっている内容を事前に熟読して、理解できた点・理解が難しかった点を整理しておくこと。なお、本講義は2単位分の講義に相当するので、講義の時間を含めて合計90時間の学習を必要とする。</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>指定したテキストについては、担当教員が準備を行うので受講者が購入する必要はない。</p> <p>1. Ton J. Cleophas and Aeilko H. Zwinderman, Modern Meta-Analysis: Review and Update of Methodologies オンライン（同時双方向）</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>木曜13:00~14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>生成AIの利用については、「教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査すること。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	<p>心理統計学, 計量心理学, 潜在変数モデル, シミュレーション</p>

授業科目名	心理基礎科学英語1
科目番号	0BTB041
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春学期 随時
担当教員	川上 直秋, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。特に自分自身の専門領域としての具体的なテーマに沿った心理学関連のe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1.汎用コンピテンス：知の活用力 コミュニケーション能力 国際性 2.専門コンピテンス：心理学的問題発見と人間理解力 心理学的問題解決力 心理学的情報発信力
授業の到達目標（学修成果）	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を英語で修得することを目標とすると同時に、心理学を専門とする学生が国際的な研究活動を推進していくための認知的技能並びに知識を獲得することを目的とする。そのために、本科目では、a) 自らの具体的な研究テーマに沿ったe-learningコースを受講することで知識を英語で獲得し、当該領域での全体的な研究の動向を英語で理解する、あるいは、b)国際学会やワークショップへ参加し、英語でのdiscussion、debate、presentationを通して当該領域での研究を英語で理解・発信することを到達目標とする。 本科目は、a) 心理学に関係するweb教材による学修、あるいは、b)国際学会、ワークショップ、実習活動などを通じた学修に対し、その学修効果が専攻で認められた場合に、単位認定をする。
授業計画	本講義は、web教材の視聴や国際学会等への参加と報告書に基づいて単位が認定される。そのため、明確な授業計画を立てるのが難しいために、以下の流れに沿って講義を進める。 A. e-learningによる心理学の学修 下記の要件を満たすe-learning心理学学習教材について、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合、その学修活動をもって単位の取得を認める。 *対象とする教材の要件:下記のすべてを満たすことを要件とする。 1)他大学において作成・運営されている心理学に関係するweb教材による学修 2)主たる使用言語が英語である 3)一方的な視聴など受動的な学習様態のみではなく、discussion、debate、presentation、action paperなどのreporting活動を含む 4)当該のe-learningを修了したことを確認できる文書がある B. 国際的な活動による心理学の学修 下記の要件を満たす国際学会、シンポジウム・ワークショップ、インターンシップについて、事前に指導教員が内容を検討し、受講生の研究計画、研究目的に合致した内容であることを確認し、そのことをあらかじめ対象とする活動が下記のすべてを満たすこと

授業計画	<p>を要件とする。</p> <p>1) 学会あるいは大学、あるいはそれに匹敵すると認定される研究施設等で計画・運営される心理学に関する研究活動に通算2日間(6.5時間/日として、13時間)以上の活動に参加できる。国際学会での発表、国際シンポジウム、国際ワークショップなどの他、心理学の専門家を対象とした国際インターンシップも対象として含める</p> <p>2) 主たる使用言語が英語である</p> <p>3) 一方的な聴講など受動的な学習様態のみではなく、discussion、debate、presentationなどのアクティブな活動を含む</p> <p>4) 当該の活動を修了したことを確認できる文書がある</p> <p>学位プログラム教育会議に報告・承認を得ている場合、その活動をもって単位の取得を認める。</p> <p>A. e-learningによる心理学の学修</p> <p>1) 受講生は履修を希望する学修プログラムを自ら選択し、指導教員に対し、その有用性、必然性を申請する。</p> <p>2) 指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する。また、学位プログラム教育会議に報告し、単位取得の承認を得る。</p> <p>3) 単位取得の承認が得られたら、受講生は学修活動を行う。その前後に、TWINSにて履修登録をしておく。</p> <p>4) 学修課程修了後、受講生は報告書を提出し、指導教員はそれを確認、承認した場合は、科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡、依頼する。同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する。</p> <p>B. 国際的な活動による心理学の学修の場合</p> <p>1) 受講生は履修を希望する国際活動を自ら選択し、指導教員に対し、その有用性、必然性を申請する。</p> <p>2) 指導教員はその学修が受講生の研究目的・計画に合致することを確認する。また、専攻教育会議に報告し、単位取得の承認を得る。</p> <p>3) 単位取得の承認が得られたら、受講生は国際活動を行う。その前後に、TWINSにて履修申請をしておく。</p> <p>4) 学修課程修了後、受講生は報告書を提出し、指導教員はそれを確認、承認した場合は、科目責任者(学位プログラムリーダー)に単位認定を連絡、依頼する。同時に学修内容ならびに報告書の内容から成績を認定する。</p> <p>なお、報告書においては、13時間の学習活動が行われたことを示す内容とする。 (例:国際学会などでは、自分自身の発表の他、複数の学会セッションでの学習活動についても報告する)。</p>
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	学修の過程、内容を判断できる報告書に基づく(100%) 提出された報告書について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究テーマに関連する国外の英語論文を講読する。国外の学会・研究会などを、e-learningコースなどを活用して英語で理解する。 視聴した教材、あるいは参加した学会の発表に関する内容を自分で調べ、まとめること 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 川上 直秋

<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00-14:00 人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp</p>
<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>英語読解力 リスニング能力 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 青年心理学 社会心理学</p>

授業科目名	心理基礎科学英語2
科目番号	0BTB042
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	秋学期 随時
担当教員	川上 直秋, 綾部 早穂, 佐藤 有耕, 大山 潤爾, 外山 美樹, 千島 雄太, 松田 壮一郎, 山口 一大
授業概要	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。自分自身の専門領域に関連する周辺領域について、具体的なテーマに沿った心理学・諸関連科学に関連するのe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。
備考	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1.国際性
授業の到達目標(学修成果)	心理学の最先端の研究状況ならびにその基盤となる知識・方法論を、英語で学ぶことを目的とする。特に自分自身の専門領域としての具体的なテーマに沿った心理学関連のe-learningコースを受講し、英語で基本的な知識を獲得しつつ、当該領域での全体的な研究の動向を理解し、自らの研究展開に役立てていくことを促進する。
授業計画	英語による授業を基本とする。各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。おおよその講義の概要は以下のとおりである。 第1回：英語で最新の論文を読む 第2回：英語で最新の論文をまとめる 第3回：英語で最新の論文を発表する 第4回：自分の研究を英語でまとめる 第5回：自分の研究を英語で発表する
履修条件	心理学学位プログラムの正規生であること
成績評価方法	発表(100%) 各回の発表について、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	研究テーマに関連する国外の学会で、自らの研究成果を英語で発表する。国外の学術雑誌に自らの研究成果を英語で発表する。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	各指導教員と予めアポイントメントをとること。 川上 直秋 綾部 早穂 sahoaya at human.tsukuba.ac.jp 佐藤 有耕 yuhkohst at human.tsukuba.ac.jp 大山 潤爾 外山 美樹 mtoyama at human.tsukuba.ac.jp 千島 雄太 松田 壮一郎 matsuda at human.tsukuba.ac.jp https://sites.google.com/site/devpsysmatsuda/ 山口 一大 木曜13:00~14:00

オフィスアワー等（連絡先含む）	人間系学系棟A棟314 yamaguchi.kazuhir.ft at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	英語表現力 英語プレゼンテーション力 教育測定学 認知工学 感覚知覚心理学 応用行動分析学 青年心理学 対人心理学

授業科目名	心理学インターンシップ
科目番号	0BTB051
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	濱口 佳和
授業概要	現在の社会に存在する、心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図りつつ、社会における心理学に対する期待と要求について、一研究者として学ぶことを目的とする。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	・汎用コンピテンス 1. 知の創成力 2. マネジメント能力 3. コミュニケーション能力 4. リーダーシップ力 ・専門コンピテンス 1. 心理臨床支援能力 2. 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	国内外の企業、官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職の就労体験を通じて、自らの能力や適性の客観評価を図りつつ、社会における心理学に対する期待と要求について理解する。
授業計画	1. 参加するインターンシップに関する情報を収集する 2. 事前指導: インターンシップの内容について、指導教員に説明し、指導教員との討論を経て、各受講生の心理学研究との関係を明確化する。「心理学インターンシップ」の要件を満たすことの承認を指導教員から得る 3. 日程、場所、活動内容についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式を心理学学位プログラム事務室(心理・心理学専攻事務室)に提出 4. 心理学学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議で「心理学インターンシップ」としての要件を満たすことの承認を得る 5. 「心理学インターンシップ」の科目履修登録を行う 6. インターンシップに参加する 7. 実習報告書を指導教員に提出(実習先からの活動証明又は評価書を添付) 8. 事後指導: 報告書に基づいて、インターンシップでの経験が受講生の心理学研究・学修にとってどのような意義があったかについて討論し、明確化する 9. 指導教員は心理学学位プログラム(心理・心理学専攻)教育会議において単位認定の承認を得て、評価する。
履修条件	1. 本科目で対象となるインターンシップは、概ね 1 週間(4ないし 5 営業日)以上の活動への参加を必要とするものであり、その内容が、心理学と関係性が強く、その教育・研究上の効果、有効性が、指導教員によって認められていることを前提とする。 また、受講生が自らインターンシップ参加の手続きを取り、実習機関から認められていることを前提とする。 2. 科目履修を希望する者は、自分自身が参加するインターンシップに関する情報をあらかじめ指導教員を通じて申請し、専攻教育会議において「授業対象」としてのインターンシップとなるか否かについての承認を得ること。 その際、インターンシップに参加する日程、場所、活動内容についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式などを添付して提出すること。提出には、指導教員による承認を必要とする。

履修条件	これらの提出された情報を元に、専攻教育会議において「心理学インターンシップ」としての教育上の利点が十分に得られると考えられる場合に履修が認められる。
成績評価方法	受講生は、インターンシップ終了後にインターンシップ実習報告書を指導教員に提出し、その承認を得て科目担当者(学位プログラムリーダー)が単位を認定する。 報告書には、インターンシップ実習での活動内容、ならびに、その心理専攻における教育との関連性について概要をまとめる。 可能であれば、実習先機関からの活動証明あるいは評価書を添えて提出する。成績の評価は活動に関する報告書(レポート)と実習先機関による評価書により評価する。成績に反映させる比率は1:1 レポートについて、達成度評価を基にフィードバックされる。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	受講生自身が見出したインターンシップの実習に基づき、指導教員からの事前・事後指導の中で、各受講生にとっての心理学の研究と関係付けていくこと。 1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	特に使用しない
オフィスアワー等(連絡先含む)	実施方法などについての相談については、メールで予めアポイントメントをとってください。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	就労体験先では、筑波大学の大学院生であることを常に自覚して、自らの言動を律すること。 「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	就労体験 心理学関連職 適性

授業科目名	臨床心理学特講D
科目番号	0BTB061
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋C 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 中島 俊, 菅原 大地, 慶野 遥香, 生田目 光, 伊藤 正哉
授業概要	心理臨床学の各領域について、専攻する指導学生の研究実施ならびにより高度な臨床的 技能の獲得を支援するための演習である。各専門領域における実践について、理論、技 法、研究法を学ぶ。
備考	オンライン(オンデマンド型)
授業方法	講義
学位プログラム・コン ピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニ ケーション力
授業の到達目標(学修 成果)	各専門領域における実践について, 理論, 技法, 研究法を学ぶ。 心理臨床学の各領域について, 専門的な研究を行い, 研究力を身につける。高度な臨床 的技能を学び, 習得する。
授業計画	心理臨床学における研究方法と臨床技能について学習する。各教員が専門とする内容に ついて講義し, 心理臨床学の最新の動向を理解し, 自身の研究と臨床実践に活かす。講 義の内容は, 以下の通りである。 1回目: 子どもの攻撃行動の基礎研究と臨床実践 2回目: いじめーその理解と予防に向けた取り組み 3回目: 日々の実践を科学する : 研究方法と学生相談の実践と研究 (概論と本学 の歴史) 4回目: 日々の実践を科学する : 学生相談の実践と研究 (自殺対策と本学の取組な ど) 5回目: REBTの理論 6回目: REBTの実際 7回目: PTSDの臨床研究と支援の実際 8回目: 解離性障害の臨床研究と支援の実際 9回目: i-CBTの効果検証とツールの紹介 10回目: 心の健康教育と効果測定の基礎
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	レポート(100%) レポート課題については, 翌週以降の授業の中で解説・講評を行う。
学修時間の割り当て及 び授業外における学修 方法	講義(100%) 1単位の授業科目は, 45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする。
教材・参考文献・配付 資料等	各教員が指定した教科書や論文等に目を通すこと。
オフィスアワー等(連 絡先含む)	各回の担当教員に連絡をすること。
その他(受講生にのぞ く)	教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し, 適切に活用してくだ

むことや受講上の注意 点等)	さい。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	0BTB071 臨床心理学実習DI 0BTB072 臨床心理学実習DII
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	心理臨床学, 実践研究, 調査法, 面接法, 実験法, 観察法

授業科目名	臨床心理学実習DI
科目番号	0BTB071
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	春C秋ABC 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 菅原 大地, 生田目 光, 慶野 遥香
授業概要	博士後期課程学生として必要な、心理臨床の実践に関する理論や技法を体験的に学ぶことを目的とする実習科目である。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、自ら修士課程学生に対して助言し、指導者としての技能を習得する。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	博士後期課程学生として必要な心理臨床の実践に関する理論や技法を体験的に学び、習得する。
授業計画	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、自ら修士課程学生に対して助言し、指導者としての技能を習得する。 1回目：心理臨床学について 2回目：心理臨床学における職業倫理と研究倫理 3回目：相談室の管理と運営 4回目：心理アセスメント・ケースフォーミュレーション 5回目：知能検査・パーソナリティ検査 6回目：インテーク面接 7回目：継続面接・ケース担当 8回目：母子並行面接 9回目：ケースカンファレンス 10回目：グループスーパービジョン
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	相談室における活動 50% ケースカンファレンスでの討論 50% 各回の終わりに小テストを課して、最終週に解説・講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に学習に励む。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本演習では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	

オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	0BTB061 臨床心理学特講D 0BTB072 臨床心理学実習DII
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	心理臨床学，カウンセリング，事例研究，相談室運営，スーパーヴィジョン，多職種連携，地域支援

授業科目名	臨床心理学実習DII
科目番号	0BTB072
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 - 3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	濱口 佳和, 杉江 征, 浅野 憲一, 菅原 大地, 生田目 光, 慶野 遥香
授業概要	臨床心理学実習DIに引き続き、心理臨床の実践について理論や技法を体験的に学ぶ。心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、修士課程学生に対して助言し、教員による指導を補佐する。
備考	対面(オンライン併用型)
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス マネジメント能力, コミュニケーション, リーダーシップ力 専門コンピテンス 心理学的問題解決能力, 心理臨床支援能力, 心理学的情報発信力, 多領域間コミュニケーション力
授業の到達目標(学修成果)	臨床心理学実習DIに引き続き、心理臨床の実践について理論や技法を体験的に学び、身につける。
授業計画	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室又は子ども相談室において、心理臨床の実習を行う。実習ではケースを直接担当し、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。また、各相談室のカンファレンスやグループスーパービジョンに出席し、スーパーバイザーの指導を受けるとともに、修士課程学生に対して助言し、教員による指導を補佐する。 1回目：相談室の管理・運営の説明 2回目：継続面接・ケース担当 3回目：心理アセスメント 4回目：パーソンセンタード・アプローチ 5回目：力動論的アプローチ 6回目：認知・行動論的アプローチ 7回目：多職種連携・チームアプローチ 8回目：ケースカンファレンス 9回目：グループスーパービジョン 10回目：事例発表・事例論文
履修条件	心理臨床学サブプログラムの学生に限る。
成績評価方法	相談室における活動 50% ケースカンファレンスでの討論 50% 講義時間内で実習の振り返りを行い、その場でフィードバックを行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習時間以外にも積極的に学習に励む。 以上について、1単位の授業科目は、45時間の学修(授業時間外の学修を含む)を必要とする(本演習では90時間)。
教材・参考文献・配付資料等	特に定めない。
オフィスアワー等(連	両相談室の教員に連絡をすること。

絡先含む)	教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	0BTB061 臨床心理学特講D 0BTB071 臨床心理学実習DI
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	心理臨床学, カウンセリング, 事例研究, 相談室運営, スーパービジョン, 多職種連携, 地域支援